

幅広い顧客対応が高評価

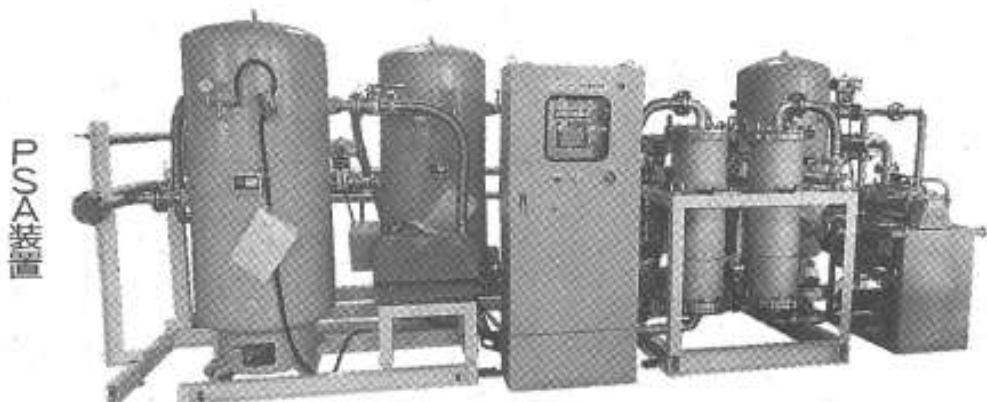
CO₂回収・濃縮に注力

フタムラ化学とケルプの吸着技術工業（長崎県大村市、堀田靖則社長・フタムラ化学取締役活性炭事業部長）が、カーボンニュートラル（CN）とSDGsの世界的潮流にベクトルを合わせ、ガス関連分野で存在感を一段と高めている。分子細孔レベルを自在制御するフタムラの活性炭（ペレット炭）と吸着技術工業

のガス精製・分離などで蓄積したエンジニアリングノウハウの相互シナジーで「活性炭のみや、装置展開オンリーの他企業にはない、両方を有している相乗効果（吸着技術工業）が強み。各種ガス吸着やガス精製・濃縮といったニーズにオーダーメイドやラインナップで広範囲に応じている。世界的なCN潮流に沿って現在、多様な顧客から事業所や工場などから排出されるCO₂回収・濃縮の案件や依頼が急増中で、「毎月何件もの新規依頼や問い合わせ」が入る状況という。具体的な設計依頼も多く、個別の仕様に応じて設計対応している。場合によっては、顧客サイドの工場などで試験設備を設置し実証する依頼もあり、柔軟に対応している。

フタムラ化学と吸着技術工業は、他企業が対応困難なニッチ分野や特殊な案件もラポでの試験から可能な限り対応する姿勢が業界からも高い評価を得ており、足元でCNとSDGsにつながるCO₂回収・濃縮の案件対応に注力していく。

また吸着技術工業は、家畜や汚泥処理設備から発生するバイオメタンガス精製で強みと実績を持つ。メタンガスの高濃度濃縮により、発電でしか利用されていなかったバイオメタンガスが、都市ガス等の代替燃料として使用が可能となり、化石燃料消費削減にも貢献。そのほか水素精製装置も取り扱っており、水素を高濃度に濃縮することで、さまざまな水素の利用用途を広げる。再生可能エネルギー分野でガス精製技術を生かし、地産地消型の装置展開につなげていく。一方、新規製品として高濃度オゾンのウィルス除去・脱臭装置も開発済み。産業用や業務用、コンシューマ用途に順次、展開を進める。



DSSA装置